

情報印刷株式会社

日本プロセス秀英堂と協業で作り上げる「総合工場」で
大きな戦力としてH・UV搭載リソロンG40が活躍。



代表取締役社長
山下 大 氏

「できるだけ早く、本格的なワンストップの総合工場を実現したい。その思いに沿う印刷機です」

会長の山下利治氏の「先行投資をしないといけないと事業の花は開かない」という考えのもと、早い時期にUV7色コールドフォイル機を導入し、業務を拡大してきた情報印刷株式会社。その意思を引き継いだ社長の山下大氏は、今年2月、日本プロセス秀英堂株式会社との協業による印刷工場「タイアップ・ファクトリー」を開設し、同工場にH・UV搭載リソロンG40（菊全判5色オフセット枚葉印刷機）を導入した。導入の背景と効果について、山下社長、山下会長、製造部印刷課の小棚木康成主任、渡辺守機長にお聞きした。

先駆けてUV対応することで 取引先を拡大

情報印刷株は、2012年にUV機を導入した。その背景を山下社長は「印刷市場が小さくなっていく状況に、大きな危機感がありました。市場動向を見ると、出版印刷が減少していく中、パッケージや厚紙印刷は徐々に伸びていっており、その分野にシフトできないかと可能性を探っていました。もともと当社の仕事は、同業他社のものが8割で、小ロットから中ロットまでとなっており、取引先の規模は小ささまざま。

それら取引先の全てに対し、UVという特殊な技術を提供することで、各社が高額な投資をしなくても、新しい仕事を受けていただき、当社は製造面で最大限に協力する。こうした取り組みから、徐々に取引先が増え、大ロットの仕事も増加しています」と語る。

日本プロセス秀英堂 との協業工場に H・UV搭載リソロンG40

市場におけるUV需要の伸びを感じた山下社長は、今年2月、同じく神奈川県にある、日本プロセス秀英堂（株）の敷地の一角に設置していた第3工場をバージョンアップ。協業体制の強化を行い、高付加価値印刷に取り組む情報印刷と、高品質に強みを持つ日本プロセス秀英堂の協業による印刷工場「タイアップ・ファクトリー」を開設。工場の主力機として、H・UV搭載リソロンG40（菊全判5色オフセット枚葉印刷機）を導入した。

ノートラブルで 24時間稼働を安定実現

昨年あたりから、プラスチック原反や疑似エンボスなどの特殊な仕事が増加。通常の4色の仕事をするキャパシティがなくなっていく、外注するようになっていきました。その業況を改善するために、タイアップ・ファクトリーには、H・UV搭載リソロンG40の導入を決めました。効果はすぐに表れ、導入前、全体の外注比率が大幅に増加していたのが、「外注」社分が、まるまる内製化できた印象」と、長年同社の舵取りを担ってきた山下会長は語る。

効果の大きさを、山下社長は「油性機とリソロンG40を比べると、後者の生産性は2倍、3倍以上というのが実感。同じオペレーターを1人付けるのなら、圧倒的にリソロンG40に付けた方がいいというのが、経営者として素直な感想です」と話す。

「色に關して超一流の日本プロセス秀英堂は、四六全機を2台、それに中綴じ機を持っています。当社は、菊全のUV5色、モノクロの全判2色を持っていて、今回は無線綴じラインも増設しました。両者が組むことによって、ほぼ全ての印刷工程を、同じ場所で行えるようになりました。どのような仕事でも受けられる『総合工場』といえるでしょう。今後は、総合力を生かし、本場のワンストップを本格的にスタートさせていく計画です。設備面の製造力については、もう心配するところはありません。後は、どれだけ効率的に運用していくか。そのためにも、さらにKP・コネクットの活用を本格化していきます」

H-UV搭載リソロンG40の操作性について、渡辺機長は「修行を重ねるのではなく、勉強して練習すれば、パソコン操作感覚で使えるようになると思います。短期間での習得も可能で今の時勢にも合っています」と評価。



製造部印刷課機長
渡辺 守 氏
「PQA-SとPDF照合を組み合わせれば、見逃しは限りなく少なくできると思います」



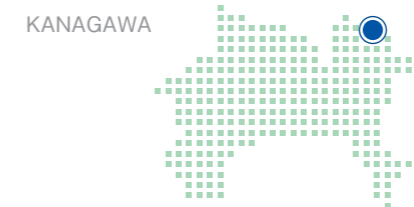
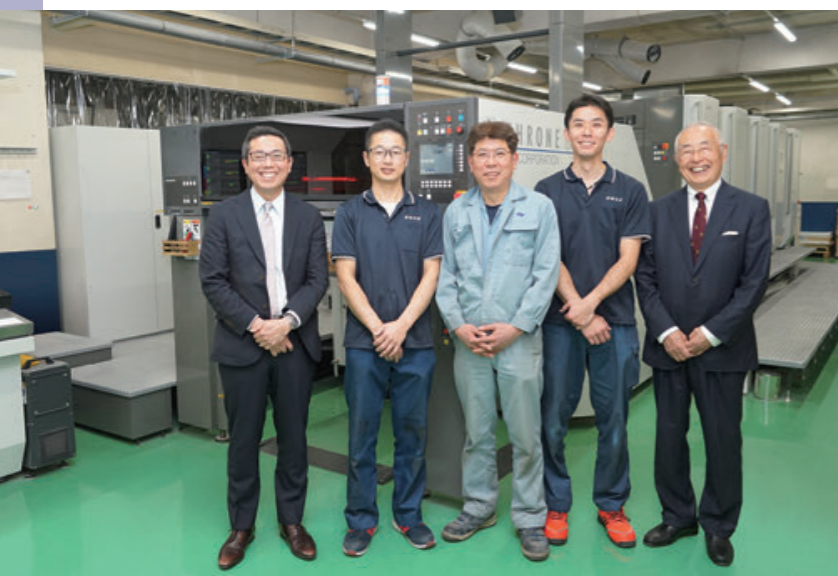
製造部印刷課主任
小棚木 康成 氏
「カメラが色調・濃度管理や品質管理してくれるのでストレスが激減。その結果もあり、ワンオペが実現しています」



代表取締役会長
山下 利治 氏
「需要の拡大を見ながら工場を増設してきました。総合工場の開設で、工場を目的によって使い分けられるようになりました」

山下会長も、その生産性に目をむく。「導入時、オペレーターはKOMORIのKGCプリンティングカレッジで教育してもらいましたが、相当みっちり教えられたみたいです。帰ってきた時は『かなりの量の受講内容だったので、頭の中を整理する必要がある』との感想でしたが、今は『全然問題ない』と自信をもって操作しています。オペレーターを交代制にして、H・UV搭載リソロンG40を24時間稼働させたところ、毎日ほぼノートラブルで稼働し、生産効率が非常に高い。色調や濃度管理の自動化によって不良紙の特定ができるため、後工程で抜くことができるなど作業の手順が確立でき、1人で紙積みや抜き取りチェックを行うなど、オペレーターのがんばりと相まって、計画していた以上の生産性になっています」

今回、なぜKOMORIのH・UV搭載リソロンG40を選択したのか。そこには山下社長の明確な考えがあった。「導入機の種類として、ダクト等の必要な通常のUV乾燥はありませんでした。紙は厚いものから薄いものま



本社 / 神奈川県川崎市高津区宇奈根718-15
https://johoprint.co.jp/
TEL / 044-850-8861

